

# PLOT FARO PANTHERA

## "Road to 8hours" SUZUKA300km



### 予選レポート

6/7-SAT ドライ

前日のフリー走行でセッティングを詰めきれず臨んだ予選、最初に走るのは寺本。不安を抱えたマシンを駆り、攻め続けながら新たなセットを探る。最終的に2分13秒453までタイムを上げ、今野にバトンタッチ。寺本の予選データをマシンに反映させ走り出した今野は徐々にタイムを上げていき、7周目に2分11秒699。2人の絶妙なコンビネーションで、総合14番グリットを確保し予選を終えた。

予選14番手 タイム：2'11.699



### 決勝レポート First Rider

6/8-SUN ドライ

決勝日、朝のウォームアップは昨晚の雨でハーフウェット。しかし決勝レース開始時には、気温28℃という初夏を思わせるドライコンディションでスタートが切られた。スタートライダーの今野はルマン式スタートから好スタートを決め、1,2コーナーをクリア。しかし続くS字コーナーで今野の目前を走る1台のマシンが白煙を上げて駆け抜ける。危険を感じた今野は瞬時にマシンを起こしラインを変える。今野の速度が落ちた瞬間を見逃さず追い抜いた1台はその直後に転倒。上から下までオイルでベトベトになりながら危険回避のブレーキングをする今野、暴れるマシンを押さえ込み奇跡的に転倒を免れる。

オープニングラップから十数台が転倒する赤旗となった。ヘルメットを交換し再びグリットにつく今野。予定より1時間ほど遅れて2度目のスタート、オープニングラップを18位で終える。オイルのまかれたS字区間を慎重に確認しながら徐々にラップタイムを上げ、6周目には12秒台に突

入。12番手まで上がり更なるポジションアップを計りたい11週目、突然ラップタイムが下がり始める。今野の残り周回は14周。マシンの状況が変わり、思い通りにタイムを上げられない。しかし、我慢の走りでも25周を走りきり12位のまま、寺本の待つピットへ向かう。





順位に影響する重要なピット作業、集中するスタッフ。『練習どおり18秒で終わらせる』気持ちを1つに一発勝負に臨む。バイクを止め、スタンドをかける。インパクトドライバーの轟音が響き、瞬時にタイヤが外れる・・・はずだった。手間取りながらも素早くタイヤを交換、ガソリンを給油。一瞬の出来事に思えたタイムは23秒。『5秒』この一瞬で順位を落とし14番手で寺本を送り出した。

今野からマシンを受け取った寺本。1年ぶりの1000ccのレースが始まった。乗りなれた600ccのような過激な走りが出るほど、まだマシンが出来ていない。そんな状況でも2分14秒～15秒台の安定した走りで徐々に順位を上げていく。11位までポジションを上げた残り10周、前を行くゼッケン81番 武田 雄一が2度目のピットイン。寺本は10番手に浮上する。9番手は約8秒前にゼッケン71番 津田 一磨。ピット作業を終え、ライダーを佐藤 裕児に交代したゼッケン81番が約15秒後方の11番手。見えない敵を追い、見えない敵から逃げる、耐久レースらしい戦いの後、最終的に佐藤にかわされ11位でチェッカーを受けた。

JSB1000 決勝 11位

## 今野コメント

300kmは『プライベート最上位』を目指しましたが叶いませんでした。しかしもうひとつの目標、『8耐に向けたマシン作り』ではベストには届いていませんが、新しいセットアップのスタートとしてはまずまずの周回タイム、順位だったと思います。もちろん納得のいく順位ではないですが、いい前哨戦になりました。8耐本番ではプライベートトップはもちろん、ワークスマシン勢に割って入るために、寺本さん、チームとがんばります！

## 寺本コメント

慣れた600ccだとセッティングが詰めきれてなくても最後は気合で乗れるけど、1年ぶりに乗った1000ccではなかなか簡単には行かないですね。まだ挙動をコントロールできる車体まで詰め切れていないのでここから先が勝負です。今回の300kmではいいデータが取れました。8耐に向けたマシンの準備も、チーム全体が同じ方向を向いているので「ラクに速く走れる耐久仕様のマシン」を目指すには良いスタートが切れたと思います。



## SPECIAL THANKS

